

2 高い盛土法面

(1) 損壊状況(例)

○盛土法高が約5mになる箇所において、降雨により盛土法面及び路肩が崩壊

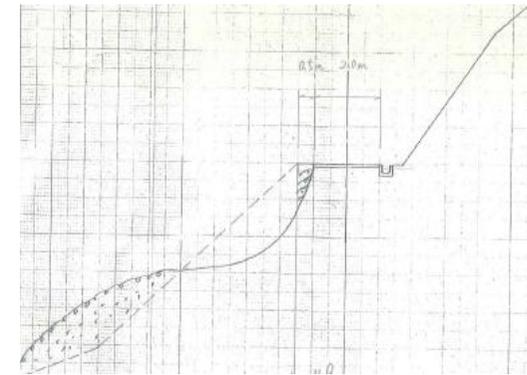
・状況写真



・平面図



・横断面図

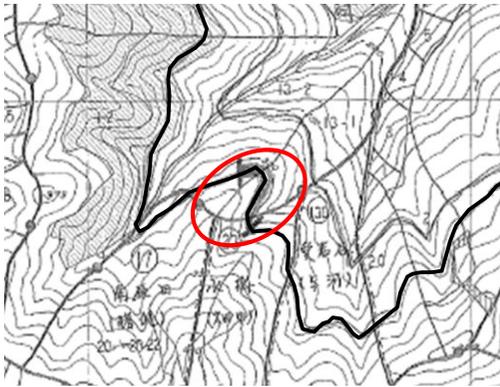


○融雪水や雨水等により盛土法面及び路肩が20mにわたり崩壊(盛土法高=4.5m)

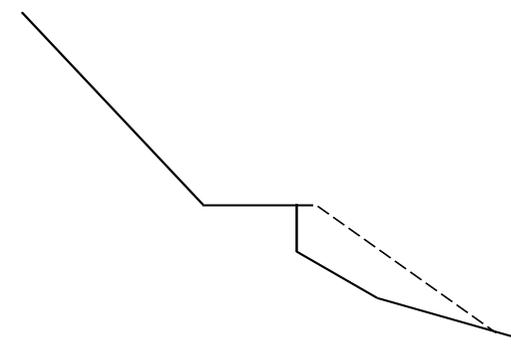
・状況写真



・平面図



・横断面図



(2) 高い盛土法面で法面崩壊が発生した要因

- ・損壊箇所前後の線形や縦断勾配の関係から、高い盛土法面にならざるを得ず、盛土法面への降雨や路面水により路肩及び法面崩壊が発生。
- ・等高線を考慮した線形になっておらず、また丸太等による構造物も設置していなかったことから、降雨等により路肩及び法面崩壊が発生。

(3) 対策

- ・切土・盛土ともに土量が少なくなるよう、片切片盛や近接地での切土・盛土の均衡に努める。
- ・事前調査及び現地踏査において路線線形や縦断勾配等の検討を十分に行い、無理のないルートを選定を行う。
- ・盛土部分への排水は出来るだけ避けることが望ましいが、縦・横断勾配を活用して路面水を盛土部分で処理する際は、土質や路肩の保護対策を検討の上、実施すること。